

 令和7年度林業イノベーションハブ構築事業

第1回 デジタル分科会 事業の実施概要

日時 | 令和7（2025）年6月18日（水）10:00～12:00

場所 | 日林協会館 3階 大会議室

Web会議「Webex」を併用

1. 林業イノベーションハブセンター（森ハブ）
2. 森ハブとデジタル林業戦略拠点のスキーム
3. デジ林3地域が森ハブで実施すること
4. デジタル林業戦略拠点の伴走支援の流れ
5. デジタル林業戦略拠点の進捗度（チェックリスト結果）
6. デジタル分科会等のスケジュール

1. 林業イノベーションハブセンター（森ハブ）

- R3年度に、『林業イノベーション現場実装推進プログラム』の着実な推進のため「**林業イノベーションハブセンター(森ハブ)**」を設置した。
- R6年度では、「森ハブ・プラットフォーム」の構築・運営、自動化・遠隔操作技術に関する安全性確保のガイドライン等の作成、地域へのコーディネータ派遣や取組成果の横展開等を実施した。
- R7年度では、引き続き「森ハブ・プラットフォーム」の構築・運営、遠隔操作・自動運転に関する安全性確保ガイドラインの更新、**地域へのコーディネータ派遣等**および**林業のデジタル化を他地域に展開する方策を検討**する。



2. 森ハブとデジタル林業戦略拠点のスキーム

- R7森ハブでは、**過年度と同様に「デジタル林業戦略拠点」取組地域（デジ林3地域）へコーディネータを派遣**する。
- 森ハブでは、デジタル分科会・森ハブ事務局・コーディネーターが伴走支援に向けて連携する。

R7 森ハブの概要（実施項目）

- 各種委員会の運営・実施
 - 専門委員会
 - **デジタル分科会**
 - 安全対策検討会
- **デジタル林業戦略拠点構築推進事業の伴走支援・他地域への展開を検討**
- 森ハブ・プラットフォームの構築・運営
- 林業機械の自動運転・遠隔操作に関する安全対策の検討

【森ハブ】林業イノベーションに係る課題・技術情報の整備や、必要な支援機能の検討を実施



【コーディネーター】

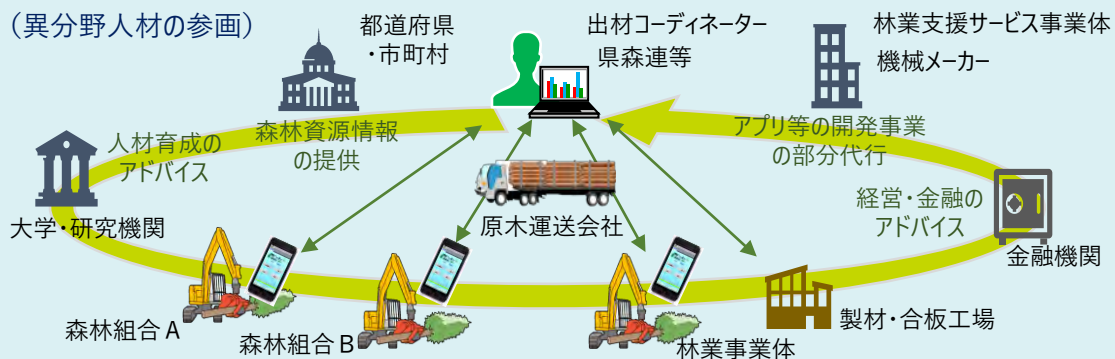


R7 デジ林の概要（実施項目）

- 地域一体で林業活動にデジタル技術を活用する取組
 - 地域全体で、森林調査から原木の生産、流通に至る林業活動にフル活用する「デジタル林業」の実践・定着
 - 多数のプレイヤーが参加し、地域全体で自立的に技術やシステムの改良を行いながら、デジタル林業を実践

【地域コンソーシアム】

（異分野人材の参画）



3-1. デジ林3地域が森ハブで実施すること①

- デジ林3地域は**取り組み内容や実証の成果を、現地ワークショップ、シンポジウム等で報告**いただく。
 - 森ハブ事務局は、デジ林3地域に対して助言を行う。また、今後の全国でのデジタル林業の実践に向けて、現地ワークショップの運営支援を行う。
- デジタル分科会 | 分科会委員よりデジ林3地域へ指導・助言を行う。
- シンポジウム | 参加者がデジ林3地域の発表を聞き、「デジタル林業戦略拠点」の横展開につなげる。

現地ワークショップでのデジ林採択地域（該当地域）発表



年間2回程度

現地ワークショップ参加者	・デジ林採択地域、今後のデジタル林業の実践に意欲を有する地域の中核となることが見込まれる関係者（以下、「一般参加者」という。）
地域発表の目的	・デジ林採択地域側から一般参加者に対する事業成果等の情報共有 ・今後の全国でのデジタル林業の実践に向けた専門・技術的な助言
事務局サポート	・一般参加者が、デジ林採択地域の発表をもとに、自地域での取組や「3～5年後にありたい姿」を検討しやすいように、グループワーク等でブレインストーミングを支援 ・一般参加者が、自地域での取組や未来像を整理し、説明ができるように、デジ林採択地域や一般参加者同士の意見交換の場を支援

シンポジウムでのデジ林3地域発表



年間1～2回程度

会議参加者	・森ハブに関心のある幅広い分野の者（林業関係者・異業種等）
地域発表の目的	・シンポジウム・フォーラムには、林業の専門外の関係者が多数参加 ・地域側は、多くの者が取組を理解して関心を持ってもらうよう説明
事務局サポート	・多くの者が取組の意義・概要・総論を理解できる発表となるよう助言

3-2. デジ林3地域が森ハブで実施すること②

- 「デジタル林業戦略拠点」に関する横展開等を行っていくため、**レポートの作成やチェックリストによる採点・評価等を行う。**
- コーディネーター派遣時のレポート作成および「デジタル林業戦略拠点」のチェックリスト評価・採点
 - 森ハブ事務局・コーディネーター間でデジ林3地域の取組状況の情報共有を行う。

コーディネーター現地派遣時のレポート作成

- ・ コーディネーター現地派遣に関して、視察内容・助言を整理。
- ・ 地域側・森ハブ事務局・コーディネーターで状況を共有。

メリット

- ・ 事務局・コーディネーター間での今後の助言の検討に活用可能
- ・ 地域側でのコーディネーターの助言内容の理解の促進

作成手順

- ・ 地域側がレポートを作成して事務局に提出
- ・ 事務局・コーディネーターが修正して、確定

第1回派遣レポート



「デジタル林業戦略拠点」のチェックリスト採点

- ・ 現地派遣後に、コーディネーターがチェックリストにより採点。
- ・ 森ハブ事務局・コーディネーターで採点結果・判断根拠を共有。

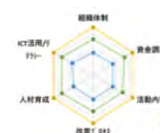
メリット

- ・ 事務局・コーディネーター間での今後の助言の検討に活用可能

作成手順

- ・ コーディネーターがチェックリスト採点を行い、事務局に提出
- ・ 必要に応じて、事務局がコーディネーターの採点を補足

チェックリスト	
① 地域コンソの組成	5
② 総論の合意形成	5
③ 金融・大学・研究機関参画	5
④ 利害関係者の調整	3
⑤ 合意形成の場の機能	3
⑥ 外部支援者の助言	4
⑦ 各論の合意形成	3

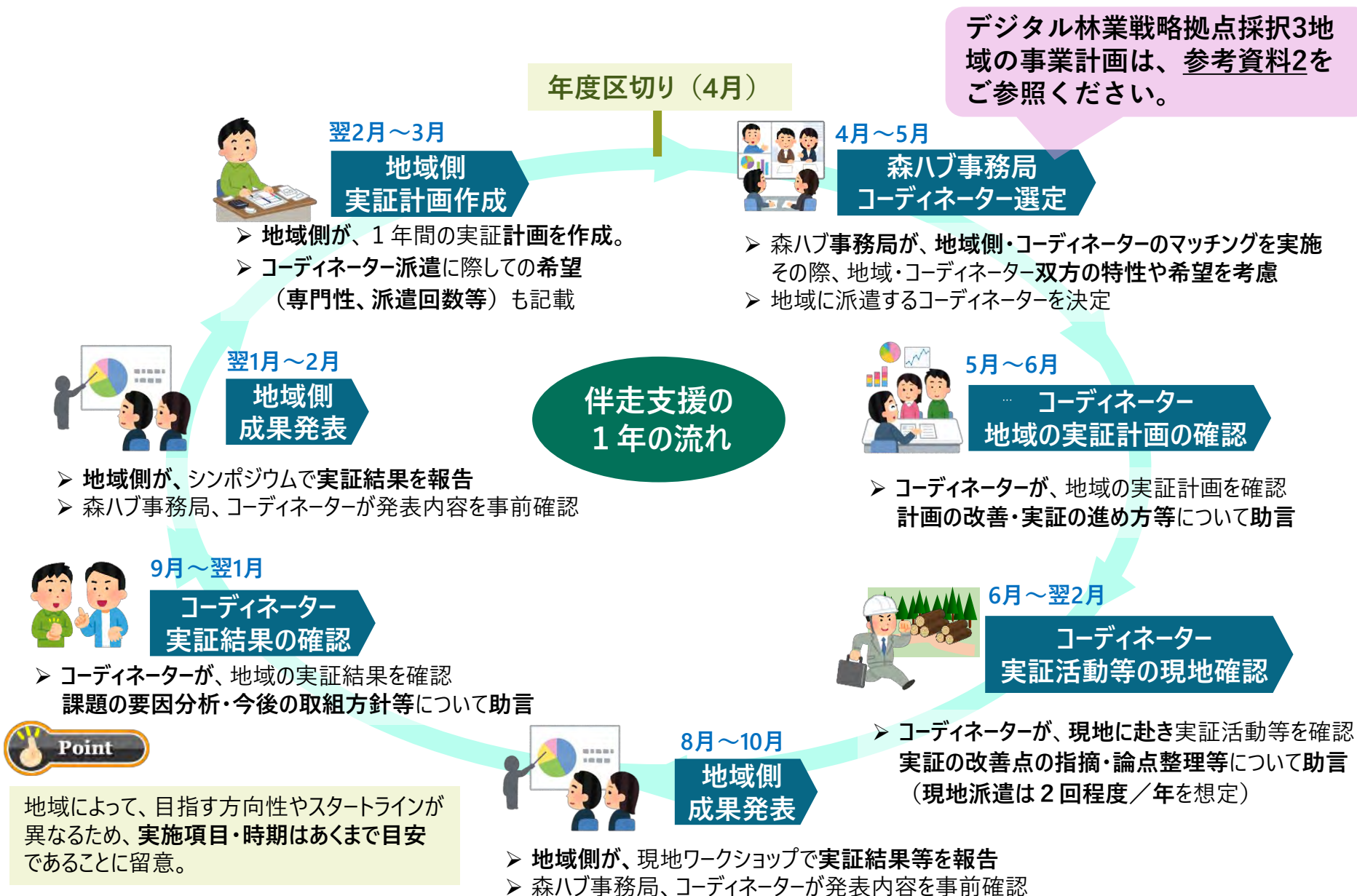


- 「デジタル技術の導入効果算定ツール（仮称）」の作成に向けて検証する。

- 森ハブ事務局・委員間で定量化新手法をとりまとめ、デジ林3地域に情報共有を行う。

他地域への展開

4. デジタル林業戦略拠点の伴走支援の流れ



5. デジタル林業戦略拠点の進捗度（チェックリスト結果）

- R6年度におけるチェックリスト採点状況（**参考資料3**をご参照ください）
 - 実証開始前（R6年7月）にコンソの自己評価を実施
 - 実証終了時（R7年3月）にコンソの自己評価と、コーディネーターによる客観評価を実施
- R7年度におけるチェックリスト採点は実証終了時に実施予定（御田コーディネーターは、派遣1回目と、実証終了時の2回実施していただく。）

R6年度チェックリスト採点結果の概要

- 自己評価の時系列は、R6年度の実証開始前後という短期間での比較である。
 - ・ 北海道と鳥取県は、進展があったという自己評価になっている。
 - ・ 静岡県は進展が少ないという自己評価になっている。
- 3地域ともフェーズ1、フェーズ2の達成度合いは高い。
 - ・ 北海道は、フェーズ2において自己評価が低く、コーディネーターとの意識合わせが必要と考えられる。
 - ・ 鳥取県ではフェーズ2の改善プロセスの自己評価が低く、課題の分析と対応策の検討が必要と考えられる。
 - ・ デジタル林業戦略拠点への応募時点でフェーズ1はある程度達成できており、**2年間の実証によりフェーズ2を達成**してきたといえる。
- フェーズ3への到達が難しい要素としては3地域共通で資金調達となっている。
 - ・ 北海道はフェーズ3の自己評価が低く、コーディネーターとの差もあるため、意識合わせが必要と考えられる。
 - ・ 静岡県、鳥取県は人材育成、活動内容がやや低い。
 - ・ **フェーズ3到達のためには資金調達、人材育成、活動内容が課題**といえる。

3地域の共通項
を他地域への
参考とする

6. デジタル分科会等のスケジュール

項目		令和7（2025）年								令和8（2026）年		
		5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
デジタル分科会			★ 第1回 6/18	伴走支援ツール 作成・検証等（協力等）				★ 第2回 時期未定		★ 第3回 時期未定	今年度の成果を 報告予定 ※シンポジウムの 報告練習兼ねる	
ワークショップ		ワークショップ 対応依頼			★ 鳥取 8/25-26		★ 静岡 9/30-10/1					
コーディネーター 派遣	北海道地域			☆ 7月 予定								
	静岡地域	コーディネーター 派遣手続き		☆ 7月 予定								
	鳥取地域			☆ 7月 上旬	☆ 8月 上旬							
下記、森ハブ事務局の流れ（デジ林3地域の関連箇所）												
■ 専門委員会等 情報共有				★ 第1回 7/4			★ 第2回 時期未定			★ 第3回 時期未定		
■ シンポジウム									報告資料等 作成依頼	★ 中旬予定		